

境野教授逝去

本學教授文學博士、境野哲（黃洋）氏は十一月十一日逝去された。九月下旬腦溢血のため卒倒され、其後快方と傳へられて居たが遂に訃を聞くに至つた。

教授は明治四年生仙臺の人、同廿五年現在東洋大學の前身哲學館を卒業し越えて卅二年同館の講師となり、文學博士鷲尾順敬氏と共に村上專精博士を援けて異常なる努力の下に佛教史家としての活動を始めたのであつた。天台の五時を以て史上の事實となした明治中葉の佛教史界を、そのパイロットとなり、現在の域に迄達せしめたのは全く教授等三氏の貢獻に依る。著述は極めて多く主なるものを擧ぐれば下の如くである「時代宗教」「日本佛教史要」（明治三十四年）「支那佛教史綱」（明治四十年）「印度佛教史綱」（明治三十八年）「印度支那佛教史綱」（明治三十九年）「禪宗小史」「佛教論理學」「八宗綱要」（明治四十二年）「支那佛教史講話」（昭和二年—四年）「日本佛教史綱話」（昭和六年）「大乘佛教の五大主義」（大正十四年）「佛教史論」（大正五年）「佛教研究法」（昭和六年）律其他の國譯（國譯一切經）

この中「支那佛教史講話」「日本佛教史講話」は共に不朽の勞作である。

大正十五年五月本學に聘せられ、以來佛教史關係の諸講座を擔當し、昭和五年十一月學位論文「隋唐以前の支那佛教」を提出して本學に依る最初の學位を得今日に至つたのであつた。資性豁達よく讀みよく語り、時に異論を招いたとはいへ、甚だ獨創に富み講義に於ても大馬空を行くの觀があつた。その專攻する佛教史の中特に隋、唐及其以前をよくし、偶々これが禪に對する正しき理解をも齎して、本學々長等の支持をも得るに至つたものである。尙本學教授となる以前、豊山大學、日蓮宗大學に講師たり、東洋大學々長たり、又世田谷中學の前身駒込中學にも永く教鞭をとられたのであつた。未完成の研究もあり、尙多くの期待を以て俟たれて居たのであるが、今前途ある齡を以て突如として逝去されたのを本學のみならず、學界のために深く惜しむ次第である。世壽六十三。